

入 選

水 の 大 切 さ

水戸市立第四中学校

一年 宇都木 愛翔

僕が、「水」と聞いて最初に思い浮かぶのは、水道のじゃ口から出る水のことです。僕達の生活には欠かせることができない大切なものということです。

しかし、僕にとって水は、身近に当たり前にあり過ぎて、この作文の課題を出されるまで、水のありがたさ、大切さなどについて深く考えたことはありませんでした。

そこで、僕はまず水について調べて理解を深めることにしました。

水は、飲み水や炊事、洗濯、風呂、水洗トイレなどの日常生活で使われるほか、農業、工業、水力発電などは広い分野の産業で使われており、僕達の暮らしを支えてくれています。そして、人間の体の

約六十から七十パーセントは、水でできているので、飲み水は人間の体に必要不可欠なものになっています。

日本では、じゃ口をひねれば当たり前のよう水が出てきますが、世界で見ると、日本のように水道から二十四時間安全でおいしい飲み水があふれ出てくる国は、ごくわずかだということを知りました。世界では、水道やトイレ、下水道といった衛生設備のない国が多くあります。その結果、生活排水がそのまま流されるため近くの河川が汚染され、安全な水が手に入らない地域があるのです。

日本の水道普及率は約九十八パーセントであり、世界と比べると高い水準ですが、残りの二パーセントの約二百三十万人が水道を利用できない状態の地域であるということが、SDGsについて調べていて分かりました。

僕が住んでいる日本は、比較的めぐまれていて、豊かな国だと思います。しかし、日本は、降水量が年々減少する傾向にあり、毎年のように各地で水不足が起こっている状況もあります。

僕の祖父母は農業を営んでいるので、農業においても、水はとても重要であると聞いています。作物は水がないと育たないため、水不足は作物の生育にえいきょうし、大きな打げきを与えてしまいます。それは、農家にとっても、深刻な問題となっています。原因を調べて見ると、水不足は地球温暖化による気候変動も関係しているということが分かりました。二酸化炭素の排出が日本の水不足に関わっているとは想像もできませんでした。人間が自然環境に与えるえいきょうはとても大きいと感じました。

また、水は、人間や動物、植物にとっても必要なものです。僕たちは一人一日平均約二百四十リットルの水を使っているそうです。過去にあった災害では、その十分の一程度の量しか得られず大変な思いをした人がたくさんいます。僕の両親も東日本大震災による断水で、当たり前のように使っていた水が出なくなり、数日間水が使えなかっただけでも、慣れない断水に困った経験をしたそうです。そして、その断水をきっかけに、水は当たり前ではないと、改めて水の大切さに気がつくことができたと言いました。

水は無限ではなく、限りある資源なので、地球温暖化防止や自然環境保全のために、僕たちにできることを少しでも実行していきたいと思います。世界の水問題にも関心を持ち、まずは、水の無駄づかいはせず、何より、水が不自由なく使えることへの感謝の気持ちを忘れずに水を大切に使用していきたいと思いました。